

# 実習における評価と実習効果についての一考察

—実習に取り組む学生の心情を通して—

長 根 利紀代

## I はじめに

近年の社会変化に伴う生活環境の現状は子どもたちばかりでなく若者たちにもその影響が見受けられ、本学の学生にも基本的な生活態度や学習意欲、主体性などにその傾向が見られる。こうした点は実習において現場からの指摘を受けることも増加し、保育者としての可能性が大いに期待され、意欲的に実習に取り組む学生の中にも「もう少し積極的に」という評価を受けることが少なくない。また、実習を最後までやり通せない学生も現れ、辞退に至らないまでも小さなことに何度もつまずき、悩み事の相談も増加している。また、全体的に他力本願的な姿勢や引っ込み思案で自分に自信のない言動も目立つ。こうしたなか、保育現場では21世紀に向かってますます保育者の役割の重要性と力量が求められ、養成校においてもさらなる実習の充実に向けて努力している。実習では学内で学んだ保育の理論や技術を現場で具体的、体験的に学び、実践に利用し応用しながら次の課題に取り組んでいかねばならないが、保育現場では子どもとのさまざまな場面において冷静、かつ敏速に対応できる適切な判断力・実行力が望まれる。また、こうした実習を通して学生は自らの保育観や子ども観を育てると共に保育者としての心構えや適正についても問い直さねばならない。それには適切に自己評価を行なう視点を持つことが大切であろう。本学の学生は毎年そのほとんどが幼稚園教諭免許と共に保母資格の取得を希望しているが、保育・施設・教育の各実習のなかで教育実習が他に先がけて一年次後期より開始される。また、本学では実習の形態についてさまざまな面から検討を重ねた結果、98年度生より見直されて集中のみの形態に移行したが、97年度生までは保育・施設実習が集中であるのに対し教育実習は毎週一日ずつのものと集中との併用で長期に渡って実施されたこともあって保育現場に対する期待と共に緊張感も強く不安感をもっていた。実習においては学生自身の積極的な実習活動と努力が実習効果を左右することにもなり、そこでの実習体験は学生の保育観に強い影響力をもっている。また、学生と出会う子どもたちに対しても少なからず影

響を与える存在と考えられることから、学生一人ひとりの心情にも配慮し、不安を出来るだけ軽減して実習に望み実習効果が上げられるよう、本研究では実習開始期及び中間期に当たる一年次後期の実習終了時、そして、2年次実習終了時にアンケートを実施し、学生の抱く思いやその変化について考察し、今後の実習指導の一助としたい。

## II 研究方法

調査対象 97年度生

教育実習期間 1年次97年10月～98年2月 毎週1回

2年次98年4月～6月 毎週1回及び一週間の集中実習との併用

調査時期 「1」1997年10月－実習開始前（事前訪問直後）アンケート「A」

「2」1998年1月－実習中間期（1年次実習終了時）

アンケート「A・B」及び実習園評価表回収

「3」1998年6月－2年次実習終了時

アンケート「A・B」及び実習園評価表回収

調査内容 ・アンケート「A」－実習不安・期待とその内容（a実習園・b子ども・c指導・援助・d教材・e記録・f自分自身などに関すること・gその他）及び実習意欲

・アンケート「B」－実習評価表の内容と同様の項目における自己評価

・評価表－4段階評価（A：よくできた B：まあまあできた  
C：できなかった D：非常にできなかった）

### 評価項目

1年次－見学・観察、指導・援助、記録、総合

2年次－指導・援助、意欲・態度、記録、総合

以上については資料参照

有効アンケート枚数 「1」「A」－152枚

「2」「A」－154枚 「B」－154枚

「3」「A」－149枚 「B」－149枚

### Ⅲ 結果と考察

#### 1 実習園評価表及びアンケート「B」について（表1・2）

97年度生実習の評価を実習園評価表（以下評価表とする）と学生の自己評価アンケート「B」でA～Dの4段階評価で集計し、結果を1年次、2年次毎にそれぞれ95年度生のものと比較して考察することとした「表1・2」。そこで、「A」評価でよくできたとしたものと「B」評価でまあまあできたとしたものを「できた」、そして「C」評価でできなかった、「D」評価非常にできなかったとしたものを「できなかった」としてみると、1年次では95年度生がA5.7%B49.1%で「できた」が54.8%、そしてC40.9%、D3.4%で「できなかった」は44.3%となりその差10.5%「できた」としたものが多。一方97年度生はA2.9%B48.1%で「できた」51.0%、C43.5%D5.0%で「できなかった」は48.5%となり「できた」としたものは2.5%多かったことになる。ここから年度比をみると97年度が8.0%低くなっている。このように2年次をみると95年度「できた」70.9%は「できなかった」28.2%より42.7%増、97年度での「できた」69.9%は「できなかった」29.2%より40.7%増であることから年度比は97年度が2.0%低くなることになる。こうしてみると97年度生は1・2年次共に学生の自信減少傾向が見受けられる。一方、評価表についてみると1年次95年度1年次のA・B評価とC・D評価を比較してみると84.0%対16.0%で「できた」が68.1%増、97年度は88.6%対11.4%で77.2%増となり年度比は97年度が11.1%多くなっている。さらに2年次では95年度89.0%対11.0%で「できた」78.0%増、97年度90.8%対9.0%で「できた」81.8%増となり年度比は97年度生が3.8%多くなっていることから、実習園評価は1・2年次共に97年度生のほうが高くなっている。以上のことから実習園に比べ学生の自己評価は全体的に低く捉えられ、しかも97年度生ではさらに評価に自信のなさが強まっている。しかし、評価表ではむしろ97年度生の評価が高くなっていることが分かる。そこで、学生が自己評価を実力に見合った捉え方ができるよう導くことは自信をもって保育を実践し、積極的な実習活動を展開することにつながることから実習効果をさらに助長すると考えられる。

表1 <園からの評価>

|    |              | A    | B    | C    | D   | 無回答 | A・B間 |
|----|--------------|------|------|------|-----|-----|------|
| 1年 | 95年<br>(07生) | 17.5 | 66.5 | 16.0 | 0   | 0   | 0    |
|    | 97年<br>(09生) | 23.1 | 65.5 | 11.1 | 0.3 | 0   | 0    |
| 2年 | 95年<br>(07生) | 30.6 | 58.4 | 10.7 | 0.3 | 0   | 0    |
|    | 97年<br>(09生) | 36.7 | 54.1 | 8.8  | 0.2 | 0   | 0.2  |

表 2 &lt;学生の評価&gt;

|        |              | A    | B    | C    | D   | 無回答 |
|--------|--------------|------|------|------|-----|-----|
| 1<br>年 | 95年<br>(07生) | 5.7  | 49.1 | 40.9 | 3.4 | 0.9 |
|        | 97年<br>(09生) | 2.9  | 48.1 | 43.5 | 5.0 | 0.5 |
| 2<br>年 | 95年<br>(07生) | 13.1 | 57.8 | 25.1 | 3.1 | 0.9 |
|        | 97年<br>(09生) | 16.4 | 53.5 | 27.5 | 1.3 | 0.8 |

## 2 実習における学生の不安・期待・意欲について

アンケート「A」において、質問「不安・期待・意欲」をそれぞれ5段階評価（1<5）としてその強度によって5～1の数字のいずれかを○印で囲み、さらに「不安」「期待」にはその内容を「a実習園そのものに関すること」「b子どもに関すること」「c指導・援助に関すること」「d教材に関すること」「e記録に関すること」「f自分自身に関すること」「gその他」として7項目に分類し、主な自分の心情が当てはまる項目に○印を付け（複数回答）、その理由を自由に記述できるようにした。

### (1) 「不安・期待・意欲」の5段階評価の結果から（図1～3）

アンケート「1」の結果を「図1」で見ると実習開始時では非常に「不安」が大きいとして「5」を選んだ学生は76名で50%と最も多いが、「期待」42.8%「意欲」57.3%とそれぞれ「5」の評価に最大値が示されており、大きな不安感強い期待感と実習への意欲に支えられているのが分かる。評価「4」をみると「不安」31.6%を同数の「期待」31.6%と「意欲」の28.3%とで気持ちをもりたて、「3」は「不安」12.5%と少ないが落ち込む「意欲」10.5%を19.1%の「期待」で支えている。しかし、「2」「1」は「不安」も3.3%・1.3%と少ない代わりに「期待」2.6%・0%、「意欲」1.3%・0%と低くなっており、やる気のない様子が気付きである。「図1」を全体としてみると開始時の不安は非常に大きい、それと共に期待もあり、特に意欲の大きさは群を抜いている。その点アンケート「2」の「図2」中間調査では各評価の数値差が縮まり「図1」では評価の数値さは「5・4」間で「不安」18.4%「期待」11.2%「意欲」29%の差がついているが、「図2」では「不安」4.5%「期待」9.1%「意欲」11.1%のようになって現れており、全体的に穏やかで落ち着いた動きになっているのが分かる。しかし、依然「不安・期待・意欲」の意識が高く、開始時には意欲が評価「2」に2名だったものから中間期では10名になりさらに評価「1」が1名出現していることも注目される。アンケート「3」については教育実習終了時であったと共にすでに事前訪問も済ませ間近に控えていた保育実習なども視野に

において答えるようにした。「図3」を見ると不安は「図1・図2」に比べ全体的に減少した。特に実習開始期の不安に比較し、新しく保育所に行くことへの不安も含み評価「5」は37名%で「4」でも42名%と低くくなっている。意欲の方は「5」74名%「4」54名%と開始期ほどではないにしても大きな数値を示している。また、「期待」でも評価「5」の53名%や評価「4」の63名%を示し学生の前向きな姿勢が見受けられる。

図1 1年次実習開始期心情調査（不安・期待・意欲） 1997.10

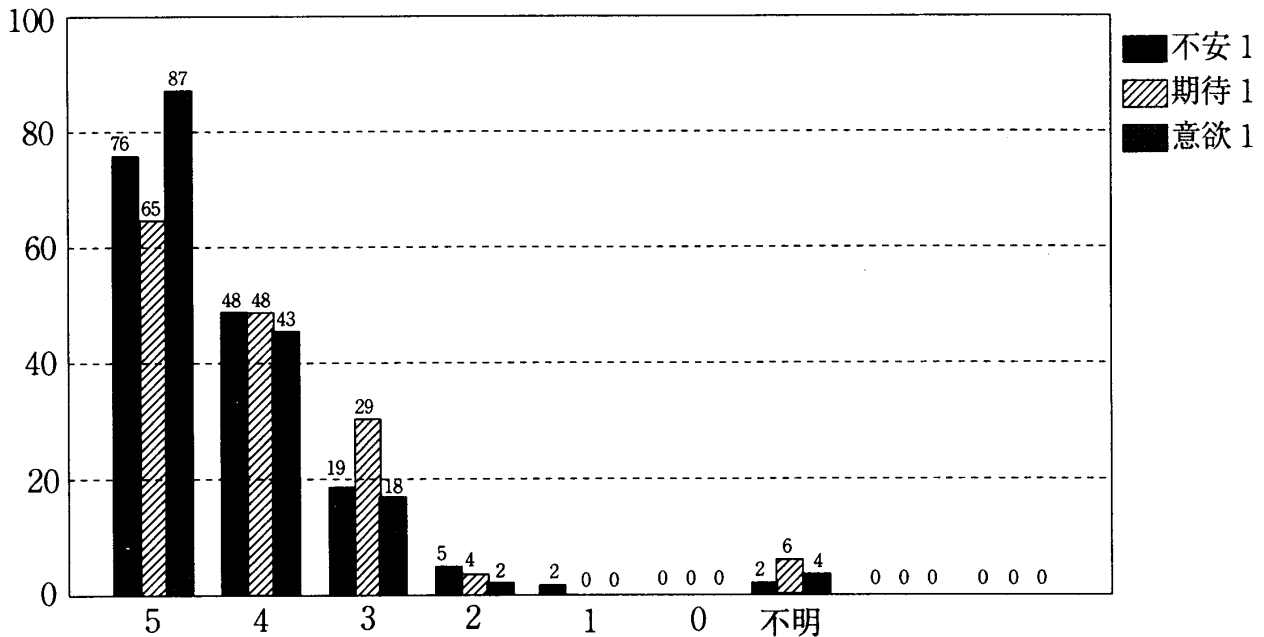


図2 1年次実習中間期心情調査（不安・期待・意欲） 1998.1

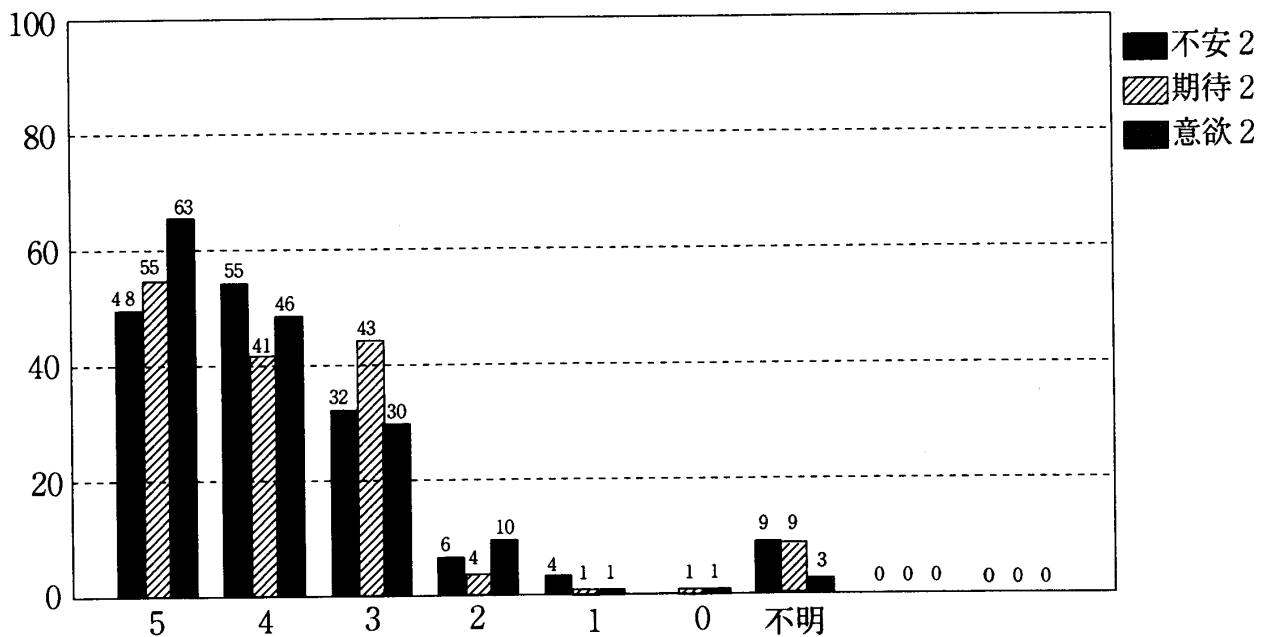
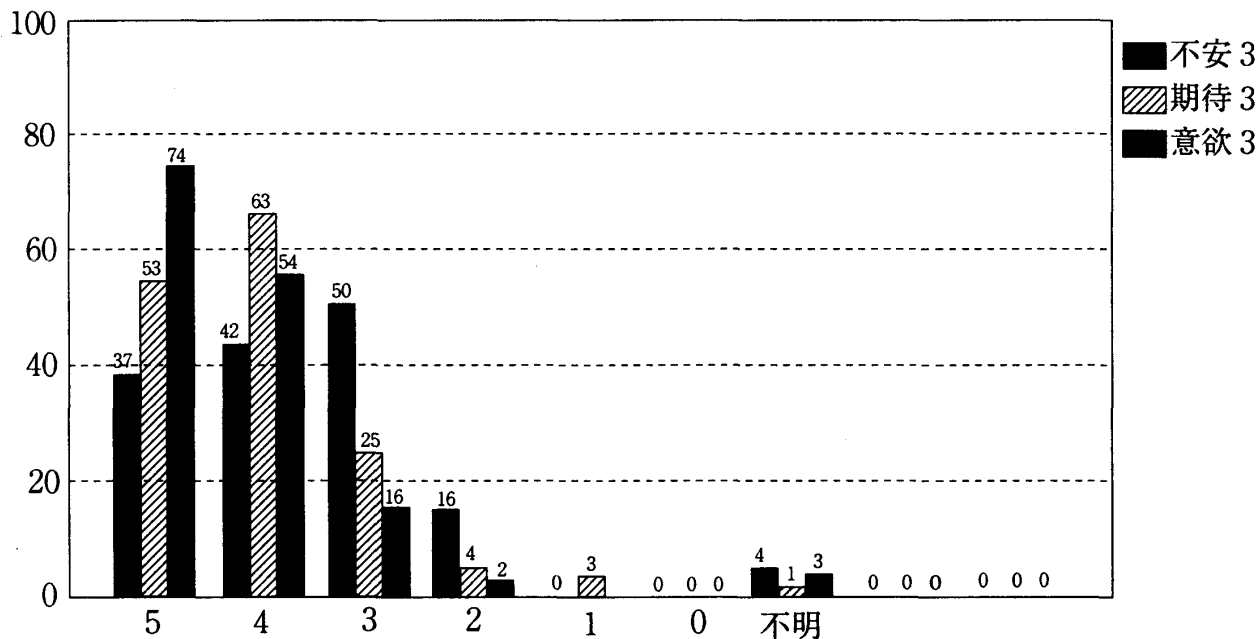


図3 2年次実習終了期心情調査(不安・期待・意欲) 1998.6

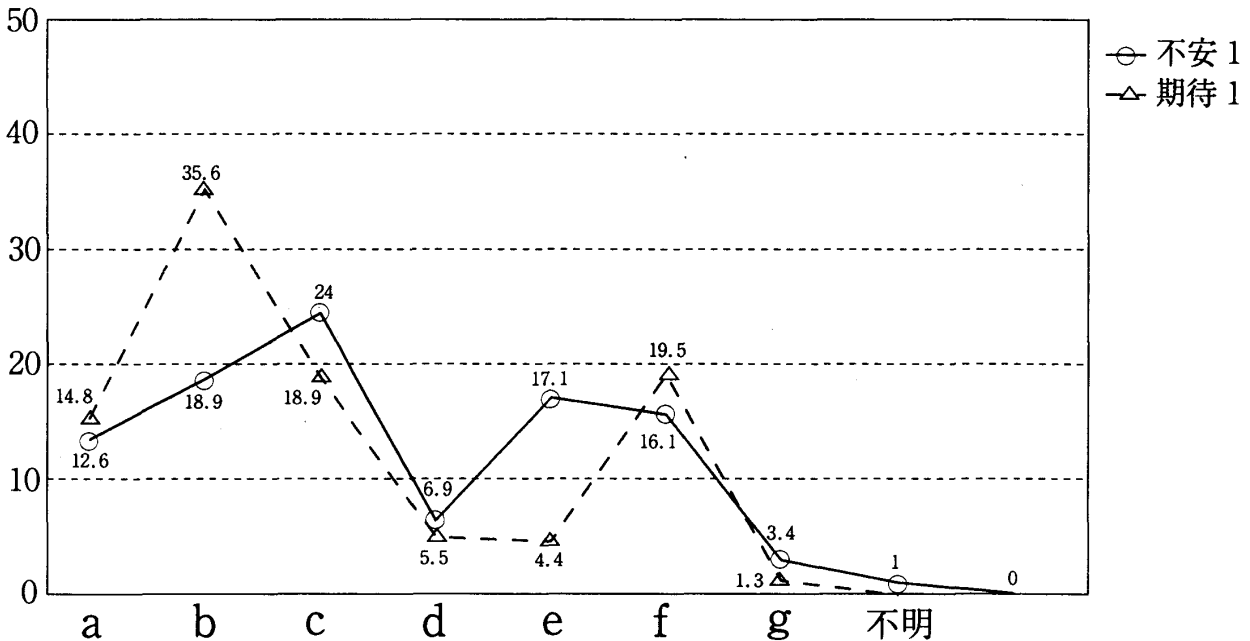


(2) 「不安・期待」の内容「a～g」及び「意欲」について(表3～5・図4～8)

① 実習開始時期(1年次)について

「不安」および「期待」にはそれぞれに「a」～「g」としての結果をみると「不安」では多い順に「c指導・援助に関すること」が全体の24%を占め、続いて「b子どもに関すること」「e記録に関すること」「f自分自身に関すること」「a実習園に関すること」「d教材に関すること」の順になっている。ここでの「c」に対しては大学で学んだものをどのように具体的なものとして実践していくか漠然とした不安を抱えている。「期待」では「b子どもに関すること」が1位で35.6%を示し次に「f自分自身に関すること」「c指導・援助に関すること」「a実習園に関すること」「d教材に関すること」「e記録に関すること」の順となっている。しかし、ここで1位の「b」については「不安」では2位になっていることから子どもへの期待が大きい反面不安の材料にもなっていることが分かる。自由記述では子どもとスムーズに関わっていけるかどうかや保育者としての子ども理解に不安が大きい、実習で子どもに関われることを楽しみと捉え子どもについて実地に学べることに期待を寄せている。ここからは何より大好きな子どもに関わりがもちたいこと、そして自分が子どもにどう思われるか、受け入れられるか、とにかく子どもに好かれたいという学生の思いが印象的である。しかし、このことが一番の意欲として現れていることに他ならない(図4・表1)。

図4 1年次開始期不安・期待内容項目調査 1997.10



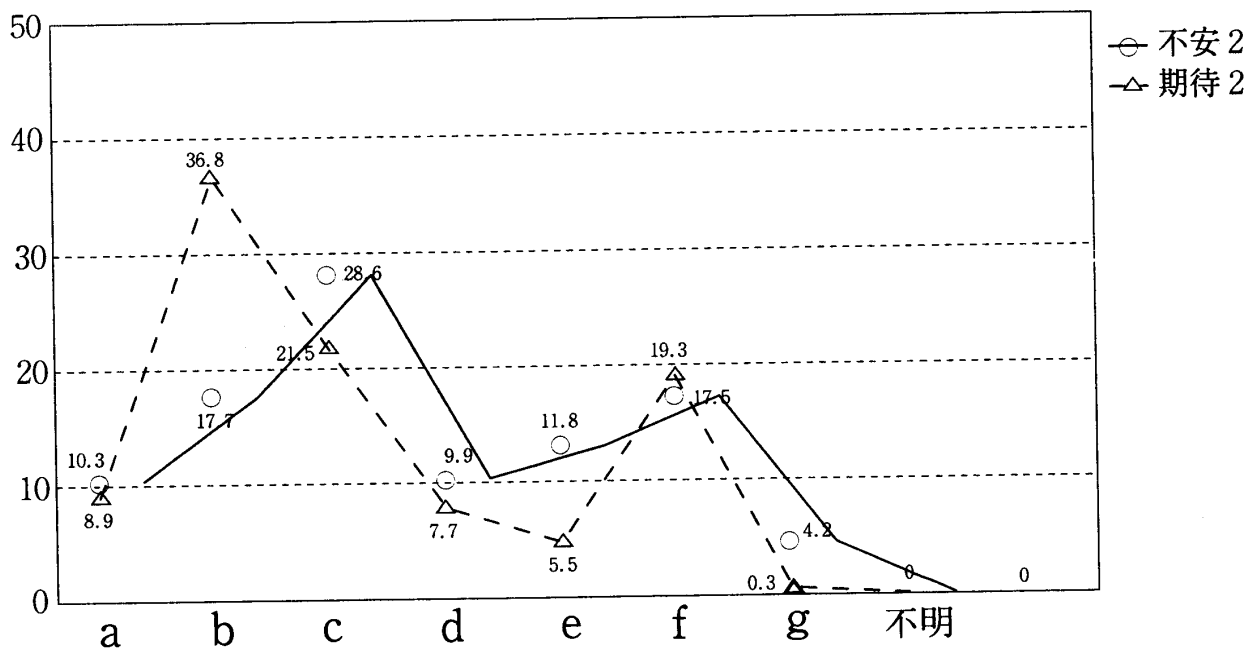
## ② 実習中間期（1年次実習終了時）について

ここでの「不安」では開始期に比べて「a」は2.3%、「b」1.2%減となり、大きかった実習園や子どもへの不安は軽減されているものの、「a」では開始期にはつかめなかった先生方とのコミュニケーションがとれるかや園の教育方針についていけるかなど実習園に即した保育実践の在り方に気づき、指導実習が迫ったことからめた実体の在る不安が現れている。「b」に関しても「子どもたちとうまくかかわれない」など子どもたちとの関わりの難しさから子ども理解の不十分さを実感し不安を覚えていることが記述されている。「c」の指導・援助では「不安」が4.6%増加している。何をどう指導したらよいのか戸惑いながらも「適切な指導・援助」を身に付けようとする前向きな姿勢からの不安と受けとめられるのが「期待」からみても感じ取れる。担任から学びとろうとする意欲や「きちんとできるようになりたい」という意志、そして、「どこまでできるか」という自分自身の成長を期待する心が不安を押さえているのが分かる。この時期に特に目立つのは「e」の記録への不安が5.3%と大きく減少している点である。これらは学生が実習を進めるなかで書き方やその善し悪しを探りながら目標をもって努力している姿がみられる。これらは学生が実習活動を展開し、記録する生活になじみ要領が分かってきたなかで保育への視点が定まってきたものと考えられる。この点は「期待」にも記述され、記録を取ることでそこから多くを学び自らを反省して成長の糧としながら後々ためになることも考慮している。一方、「f」については実習開始時に比べ「不安」は1.4%増加し「期待」は0.2%とわずかだが減少傾向にある。理由として自分の保育者としての能力・技術や性格面など適正について不安をもちながらも「よい保育者になりたい」という思いは強く自分自身の成長に

手応えを感じながらも自信をもてるように学んでいこうとする意欲がみられる。「a」についても5.9%「期待」が減少しているが、上辺の期待から現実の実習をみつめ直した結果と考える。「d」の教材については2.2%の「期待」の増加について現場で見聞きしたものと身に付けたものを経験を積みながら自らの技量とし、子どもたちの反応によるこびを感じている。

このようなことから中間期の「不安」では「a・b・e」については減少し「c・d・f」については増加しており、「期待」では「a・f」は減少し「b・c・d・e」では増加している。特に目立つのは「c」指導・援助の「不安」の増加と「e」の記録の「不安」の減少であった。全体的には実習開始時にみえなかった「不安」や「期待」からみえる「不安」や「期待」になってきたなかで実習を通して成長していこうと意欲的に実習に取り組んできた姿が認められる。

図5 1年次中間期不安・期待内容項目調査 1998.1



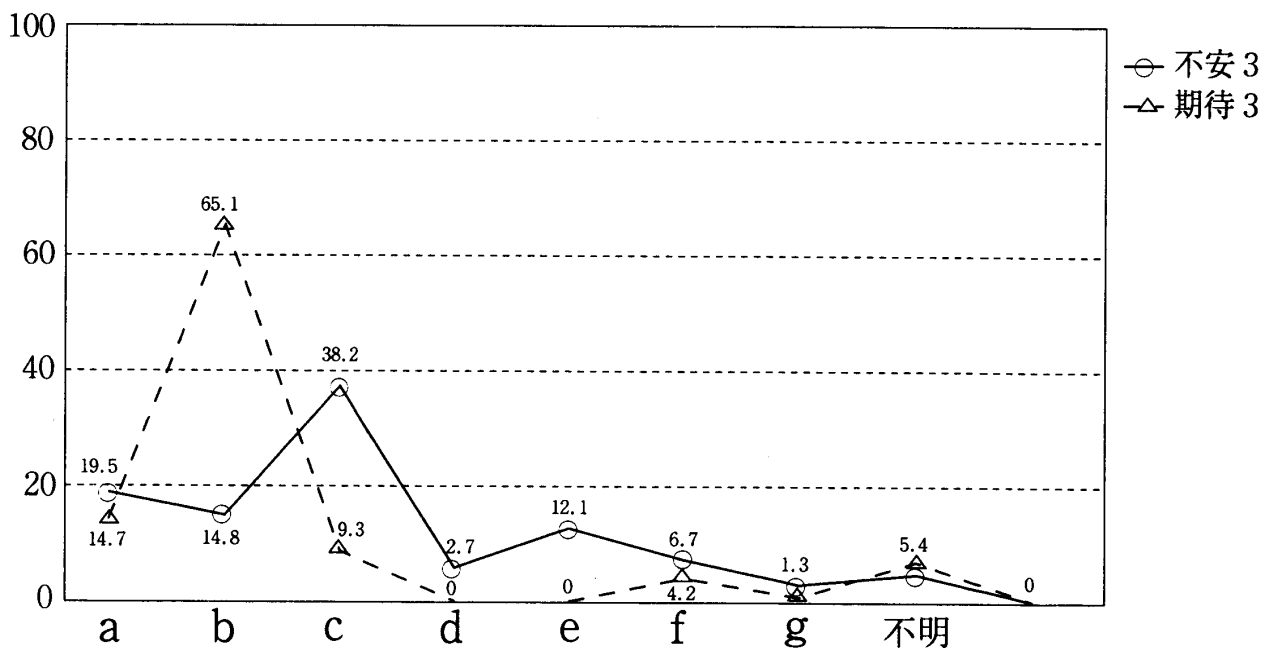
### ③ 実習終了期（2年次）について（表4・図6～7）

「不安」は「c」の指導・援助に高く、次いで「a」実習園、「e」記録と続いている。子どもへの不安は減少したが自分自身への不安も減少している。しかし、この点は「期待」でをみると少なからず気がかりである。「不安」よりも「期待」の数値が低くなっているだけでなく3期で一番低い数値4.2%を示しているのである。これは指導・援助への「期待」も低い数値になっていることから指導実習の結果や体験から上げられたものと考えられる。また、子どもへの期待が今までにない65.1%という高い数値を示していながら実習園に実習開始期より「不安」が大きくなっている。そこで「表4」の項目ごとの理由をみ



ると「a」に関しては教育実習開始期と類似しているが保育実習を控え園の様子が分からないことが不安材料の1位にあげている。また、幼稚園とどのように違うのかに関心が高く、「不安」も「期待」も就職をも考慮しての思いが記述されていた言葉から感じられる。「b」に関しては「乳児と接するのがたのしみ」と未満児、乳児に関心が高く非常に楽しみにしている様子がみられるがその対応が養護など幼稚園よりさらに細かい配慮の重要性を感じている。また、教育実習と異なり期間が集中していることに「短い間に信頼関係が築けるか」などと不安が大きい。これらはすでに実習を経験したことから予測された戸惑いであり、この期間や実習形態の違いに関しては「c」でも取り上げられ子どもの前に立つまでの準備、特に時間的な不安をもっている。さらに「d」や「e」でも教材作製や活用、日誌や指導案など毎日記録を書くことへの不安も強い。ここでも未満児や乳児への対応や記録様式の違いに戸惑いを見せている。しかし、「期待」にみられる「今までに学んだことを生かしたい」という意志やさらに多くを学び自分のものにしていこうと言う前向きな姿勢もはっきり現れており、その方法や方向性もつかめた学生も多い。そして、「f」に自分への自信を覗かせて「自分の成長を期待し試したい」として力量を育てようとする姿勢や就職に対する意欲も方向を得てきている。しかし、一方では実体験から自分に対する不安が深刻になった面も伺え、「体調を崩さないで続けられるか」など特に体力や性格的な面で現実的な悩みを抱える傾向が強く現れている。

図6 2年次終了期不安・期待内容項目調査 1998.6



以上のことを各項目毎に考察すると「a 実習園に関して」は開始当初の不安は園の様子が分かることで減少したが期待も低くなった。終了時に来て保育実習を控え再度大きくなっ

た。「b子どもに関して」では不安は実習が進むにつれて小さくなったが対照的に期待は大きくなり終了期には開始期の35.6%から65.1%と29.5%跳ね上がっている。これは幼稚園での子どもとの感動的な体験と共に乳児に対する大きな期待が現れたものと考えられる。こうした点は「cの指導・援助」で実習が進むにつれて募ってきた不安が開始期24%から終了期では38.2%となったことにもみられ「期待」が3期で一番低くなった点からも不安の深刻さが見受けられる。これは先に述べたように実習を体験して実感が伴っていることと、未満時や乳児への対応から現れた未経験のものに対してであり、「d教材に関するもの」の「不安」が低く期待が0%であることから養護に対する関心からのものであると考える。「e記録に関するもの」については常に不安がつきものになっており、一旦は経験しておちつきをみせるが終了期は新たな記録や指導案への不安を抱き毎日書くことで時間や量を推測し睡眠不足を心配する声が多い。「f自分自身に関するもの」については「不安」「期待」共に開始期や中間期では大差はないが最後になって「不安」減少と同時に「期待」が大きく後退した。これは実習における失敗などが原因の一つになっていることも考えられるが何より体力や精神面が要因となっている。また、「gその他」にあるように人間関係に起因する不安も見逃せない。

図7 不安内容項目別比較調査 1997.10~1998.6

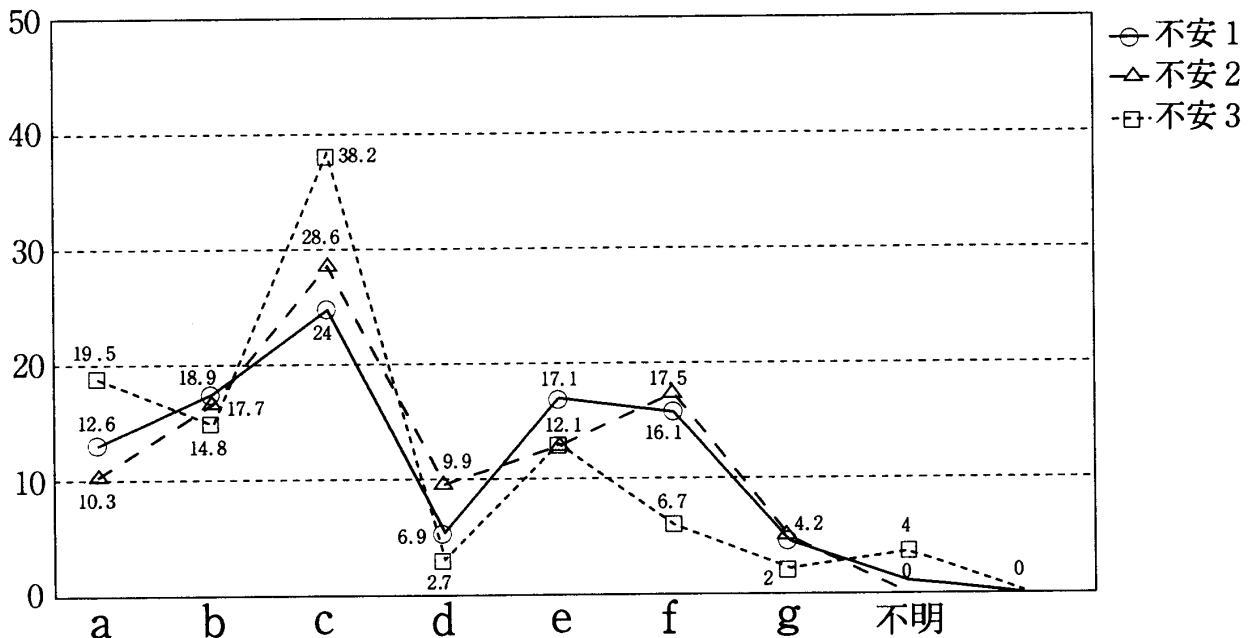
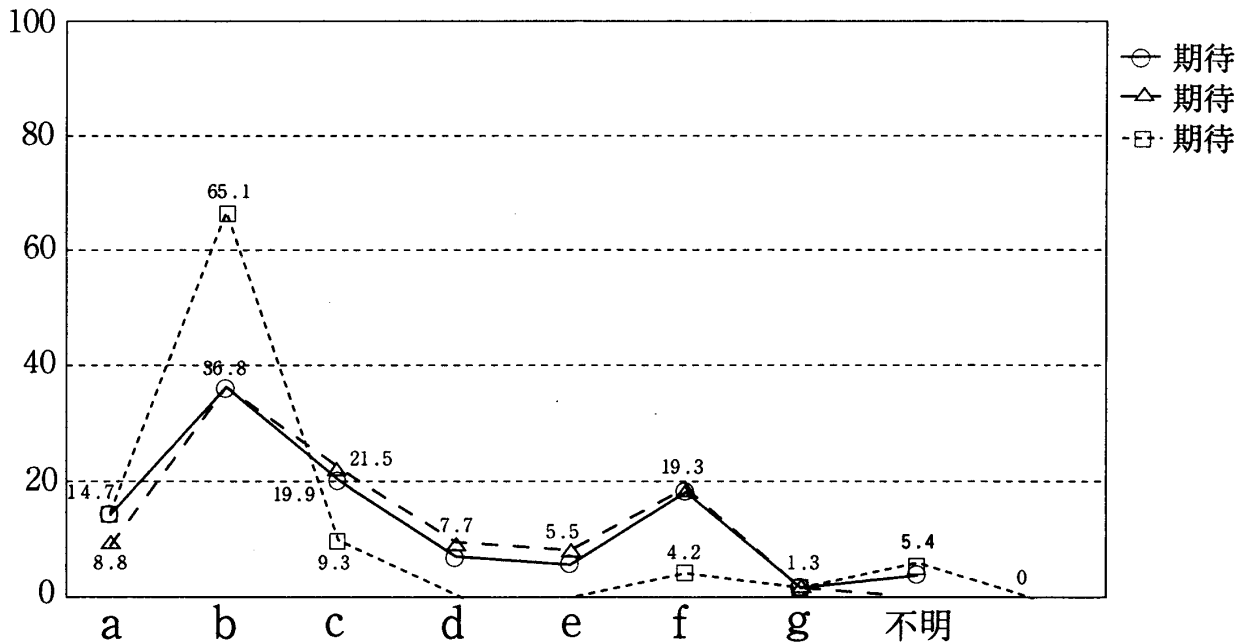


図8 期待内容項目別3期比較調査 1997.10～1998.6



## ④ 不安の軽減・解消について

アンケートのなかで質問として「不安の軽減、解消に役立ったものはなにか」として回答を求めたところ中間期・終了期共通して1位に子どもとの触れ合い・子どものことばや笑顔をあげ「子どもの喜ぶ顔をみると幸せになる」と述べている。2位には現場の保育者からの賞賛・励まし・アドバイスなど言葉がけや笑顔、思いやりなどが学生たちを支えている。3位にはともだちや仲間との体験や意見の交換とあり、その他指導実習や読み聞かせなどの実践経験、自らの考え方や心がけ、大学教員からのことばや授業、オリエンテーションなど、また、先輩との交流、資料教材準備、練習と続いている。小数であったが「自分の力が付いたと自覚したとき」「みんなのアンケート結果で私だけが実習に関するさまざまな不安を抱いているのではないことが分かり、それに関するプリントのまとめも役だった」などは印象的であった。しかし、何といたっても子どもとの関わりの中での感動が何にもまして大きく学生を育てる原動力になっているのが認められた。

【表 3】

| 不安理由 実習開始期（1年次）  | 期待理由 実習開始期（1年次）  |
|--|--|
| <p>a 実習園そのものに関すること</p> <p>第1位 先生とのコミュニケーション</p> <p>第2位 まだ園のことを把握できていない</p> <p>第3位 園の教育方針についていけるか</p>   | <p>a 実習園そのものに関すること</p> <p>第1位 幼稚園というものが具体的に分かりそう</p> <p>第2位 雰囲気がよくさそう</p> <p>第3位 身に付けられるよう学びたい</p>   |
| <p>b 子どもに関すること</p> <p>第1位 子どもたちとうまく関わられるか</p> <p>第2位 自分を受け入れてくれるか心配</p> <p>第3位 子どもを理解できるかどうか</p>   | <p>b 子どもに関すること</p> <p>第1位 子どもに関われるか</p> <p>第2位 子どもの様子がよく分かる</p> <p>第3位 たのしみ</p>                      |
| <p>c 指導・援助に関すること</p> <p>第1位 指導・援助、言葉がけの仕方</p> <p>第2位 適切な援助・指導ができるか</p> <p>第3位 いろいろな状況に適切に対応</p>  | <p>c 指導・援助に関すること</p> <p>第1位 先生の言動から学びたい</p> <p>第2位 きちんと指導援助できるようになること</p> <p>第3位 自分はどこまでできるか</p>     |
| <p>d 教材に関すること</p> <p>第1位 時と場合に適した教材活用</p> <p>第2位 絵本の扱い</p> <p>第3位 子どもがたのしんでくれるか</p>  | <p>d 教材に関すること</p> <p>第1位 どんなときにどのような教材を工夫し生かすのが学びたい</p> <p>第2位 実践経験を沢山したい</p> <p>第3位 道具や教材が沢山あった</p> |
| <p>e 記録に関すること</p> <p>第1位 きちんと書けるか</p> <p>第2位 書き方の実際が分からない</p> <p>第3位 保育中でのメモの取り方</p>   | <p>e 記録に関すること</p> <p>第1位 後々のためになるようにしたい</p> <p>第2位 沢山学びたい</p> <p>第3位 記録を書くことで反省などして少しは成長できると思う</p>   |
| <p>f 自分自身に関すること</p> <p>第1位 保育能力・技術に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの前で適切な対応ができる自信がない</li> <li>など</li> </ul> <p>第2位 実習そのものに関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんとやっているか、担任との関わり、どれだけ学び取れるか</li> </ul> <p>第3位 精神的・性格的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極性がない、いい加減、精神的に疲れやすい、やるが遅い</li> </ul> | <p>f 自分自身に関すること</p> <p>第1位 自分にとってすごく勉強になる</p> <p>第2位 どれだけ自分が出せるか</p> <p>第3位 少しでも向上したい</p>            |
|  | <p>g その他</p> <p>第1位 いろいろな行事に参加したい</p> <p>自分の幼年時代を参考にして子どもの気持ちを知りたい</p>                               |

【表 4】

| 不安理由 実習中間期（1年次）  | 期待理由 実習中間期（1年次）   |
|--|---|
| <p>a 実習園そのものに関すること</p> <p>第1位 先生とのコミュニケーション</p> <p>第2位 園の教育方針についていけるか</p> <p>第3位 参加実習が不十分で不安</p>   | <p>a 実習そのものに関すること</p> <p>第1位 先生方から指導</p> <p>第2位 学ぶべきところが沢山ある</p> <p>第3位 就職するのに必要な技術を身につけたい</p>  |
| <p>b 子どもに関すること</p> <p>第1位 子どもたちとうまく関われない</p> <p>第2位 子ども理解できない</p> <p>第3位 これでいいのか不安</p>   | <p>b 子どもに関すること</p> <p>第1位 子どもと会えるのがうれしい</p> <p>第2位 子どもの成長がみられる</p> <p>第3位 もっと子どものことが分かる</p>   |
| <p>c 指導・援助に関すること</p> <p>第1位 適切な援助・指導ができない</p> <p>第2位 どうしていいかわからない</p> <p>第3位 言葉がけがうまくいかない</p>  | <p>c 指導・援助に関すること</p> <p>第1位 先生方から学ぶことが沢山ある</p> <p>第2位 徐々に分かりできるようになってきた</p> <p>第3位 適切な援助指導が分かるようになりたい</p>   |
| <p>d 教材に関すること</p> <p>第1位 紙芝居・絵本の選び方と扱い方</p> <p>第2位 どんなときにどのような教材を使えばいいのか</p> <p>第3位 あまり知らない</p>  | <p>d 教材に関すること</p> <p>第1位 現場で経験を積み多くの教材に対する知識も積んでいきたい</p> <p>第2位 先生のを見て学ぶ</p> <p>第3位 子どもをよろこばせたい</p>   |
| <p>e 記録に関すること</p> <p>第1位 これでよいのか分からない</p> <p>第2位 きちんと書けない</p> <p>第3位 書き方がよく分からない</p>   | <p>e 記録に関すること</p> <p>第1位 先生がよく見てくれる</p> <p>第2位 日誌の書き方が分かってきた</p> <p>第3位 よりよくしたい</p>   |
| <p>f 自分自身に関すること</p> <p>第1位 保育能力・技術に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんとした適切な対応ができているか</li> <li>・子どもの引きつけ方</li> <li>・本当に保育者としてやっていけるか</li> </ul> <p>第2位 精神的・性格的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗を恐れ積極的に動けない</li> <li>・保育者としてやっていけるか</li> </ul> <p>第3位 実習そのものに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が成長できているのか</li> </ul> | <p>f 自分自身に関すること</p> <p>第1位 自分自身が成長できる</p> <p>第2位 自分に自信を持ちたい</p> <p>第3位 よい保育者になりたい</p> <p>g その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知らなかった歌などを学びたい</li> <li>・もっと子どもの前で自信を持ちたい</li> </ul> |

【表 5】

| 不安理由 実習終了期（2年次）   | 期待理由 実習終了期（2年次）   |
|---|---|
| <p>a 実習園そのものに関すること</p> <p>第1位 園の様子、方針が分からない</p> <p>第2位 幼稚園との違い</p> <p>第3位 自分がその園に適応できるか</p>               | <p>a 実習園そのものに関すること</p> <p>第1位 どんな保育園かたのしみ</p> <p>第2位 先生方の対応がよい</p> <p>第3位 園の雰囲気が良い</p>                                  |
| <p>b 子どもに関すること</p> <p>第1位 幼稚園の子どもとの違い</p> <p>第2位 未満児、乳児への対応</p> <p>第3位 2週間という短い時間で信頼関係が築けるか</p>           | <p>b 子どもに関すること</p> <p>第1位 乳児と接するのが楽しみ</p> <p>第2位 子どもたちと関われ、その成長が見られる</p> <p>第3位 幼稚園と保育園の違い</p>                          |
| <p>c 指導・援助に関すること</p> <p>第1位 幼稚園との違い</p> <p>第2位 未満児、乳児への対応</p> <p>第3位 短期間で準備できるか幼稚園でうまくできなかった</p>          | <p>c 指導・援助に関すること</p> <p>第1位 保育園の指導援助の仕方が学べる<br/>(特に乳児、未満児)</p> <p>第2位 幼稚園実習から学んだことを生かせるか</p> <p>第3位 今までに学んだことを発揮したい</p> |
| <p>d 教材に関すること</p> <p>第1位 教材選びの基準がわからない</p> <p>第2位 一日実習のための十分な準備ができない</p> <p>第3位 園でどのような扱いをしているのか分からない</p> | <p>d 教材に関すること</p> <p>第1位 どのようなものを使っているか</p> <p>第2位 今までに学んだことを活用していきたい</p> <p>第3位 子どもの反応</p>                             |
| <p>e 記録に関するもの</p> <p>第1位 幼稚園実習との書き方の違い</p> <p>第2位 書き方が分からない</p> <p>第3位 毎日書くので大変</p>                       | <p>e 記録に関するもの</p> <p>第1位 書き方を会得していきたい</p> <p>第2位 記録を通して学びたい</p> <p>第3位 幼稚園実習との違いを学びたい</p>                               |
| <p>f 自分自身に関すること</p> <p>第1位 体調を崩さないで続けられるか</p> <p>第2位 幼稚園と保育園の違い</p> <p>第3位 子どもとうまく関わっていけるか</p>            | <p>f 自分自身に関すること</p> <p>第1位 自分の成長ぶりを試したい</p> <p>第2位 自分がどう成長していくか</p> <p>第3位 保育園に就職したいので</p>                              |
| <p>g その他</p> <p>第1位 幼稚園との違い</p> <p>第2位 外国人でことばの通じない子が多い</p> <p>第3位 先生との人間関係（複数担任など）</p>                   | <p>g その他</p> <p>第1位 幼稚園とは違った行事が見られる</p> <p>第2位 幼稚園との違い</p>  |

#### 4. まとめ

本研究では学生の心情を調査し、それぞれの時期での変化を考察した。実習開始期においては大きな不安をもっていたが同時に大きな期待感とそれらを上回る意欲とで乗り越えている。この時期の不安は学内で保育の概要はどうにかつかみながらも実践に対して実体的みえない戸惑いが現れているが、ただ子どもに会えることや憧れの現場に保育者として立てることへの期待に実習意欲がかきたてられていた。中間期になると不安・期待・意欲は全体的には一応の落ち着きを見せていたが実習意欲の減退を示すものも増加した面があった。ここでは実際の実習活動が学生の心情の明暗を分け漠然としていた不安が現実のさまざまな疑問や戸惑いとなった。実践を通して保育の難しさを味わい指導実習を目前にして能力向上の必要性を実感して積極的に保育技術を獲得しようとする一方で、現実の自分の保育者としての将来に不安をもつ姿も見受けられた。こうして迎えた終了期については保育実習が迫っているもののそれほど不安は小さくなく、中間期に気がかりだった実習意欲減退者も意欲をもち直す姿勢になった。ここでは子どもへの不安は減少し期待が激増している。これは幼稚園での子どもとの関わりの経験に加え保育所の未満児や乳児に対する期待が膨らんでいる。また、自分に対する不安は減少したものの期待に対しては激減した。これは幼稚園実習での失敗や身近になった就職を踏まえて自分の保育者としての適正を考慮したものと考えられる。また、特に集中実習形態に対する体力面や精神面に自信がもてないでいる。こうしたなかでも多くの学生は「よい保育者になりたい」「子どものためになる適切な保育をしたい」という思いは明確になってきている。しかし、そんな学生にとって「指導・援助」は実習を進める上での大きな不安材料になっていた。今後も保育の重要な課題となり保育理解が深まるにしたがって難しさが増してくることも考えられる。今回、不安と期待がこうさするなかで非常に意欲を燃やして実習に取り組もうとする学生の姿があったが、不安軽減・解消に役立ったのは子どもたちの反応や現場の保育者の対応とあるのは改めて現場の皆様方のご配慮に感謝したい。そして、「できた」という確かな手応えなどから自信をもつことが積極的実習姿勢につながることも認められた。しかし、次の実習に向けて自分の不安解消のため文献研究や資料教材の準備練習などを上げた学生はわずかな数にとどまっているように、学内における学習によるものが少ない。また、実習においては常に子どもの反応から反省点を見だし改善していくことは必要であるが子どもを含め人からどう思われるかに重点がおかれる傾向がみられるのは気がかりである。学生は一律に、子どもを大切に思う心やよい保育者になりたいという意欲は十分にもっていることは明確であるが、ことが一つが終われば問題から心が離れる傾向があり実習が始まるたびに同じ思いを繰り返しているようでは問題解決にはならない。実習とは学内で学んだものを現場で実践的体験的に学びそれを学内にもち帰り、さらに研究して生きた理論や技

術を身に付けることであることから実習で抱えた問題を自分の課題として一つひとつの解決に向けて自己努力を継続していく姿勢が求められる。また、今回大きく不安として現れた体力や精神力をサポートするには生活面への指導も大切になる。これらはどの実習にも共通する課題でもあるといえることから、実習園との連携は言うまでもないがさらに各実習間の連携を深め保育者養成全体の流れのなかで実習効果を図ることが必要であると考えられる。これまでも先行研究などから学生の疑問や保育評価の視点など課題として取り上げ資料の配布とそれに伴う事例研究、各種アンケート結果の報告及びアドバイスなど学内指導や授業に取り入れてきた。今後も子どもにできるだけ早い時期から触れられるよう配慮することから学習への方向と保育に取り組む姿勢を引きだし理論と実践との距離感を短縮できるように指導したい。また、学生の心情や必要性を把握して、授業のなかで学生が自分の能力や技術を発揮して具体的・体験的に学習できるように工夫し、それが学生自信の長所短所を見つめる機会にもなるような場も用意するなどから学生の力量や自信を育み実習意欲や実習効果を高めていけるよう今後の課題としたい。

### 【資料】 199 年度教育実習事後指導（まとめ）アンケート

教育実施有評価表・自己評価

幼稚園

No. \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

| 評価項目 |       | A | B | C | D |
|------|-------|---|---|---|---|
| 1    | 意欲・態度 |   |   |   |   |
| 2    | 指導・援助 |   |   |   |   |
| 3    | 記録    |   |   |   |   |
| 4    | 課題研究  |   |   |   |   |
| 5    | 総合    |   |   |   |   |

\* 上記アンケートの1～4の評価項目について自己評価し、A～D当てはまる評価の欄に○をつけなさい。



## 教育実習に関するアンケート1997.09生1年次

実習事前オリエンテーションも終わり、いよいよ実習が始まります。そこで実習への期待や不安があると思いますので、今後の授業やオリエンテーションの参考のため、あなたの現在の心境を聞かせて下さい。（数字を○印で囲んで下さい。1<5）

### 1. 実習への不安度      0   1   2   3   4   5

☆その不安は主に何ですか。下記の項目のうち、当てはまる項目アルファベットに○印をつけ、不安の強い順に（ ）に番号と主な理由を記入して下さい。

（ ） a 実習園そのものに関する事 理由：

（ ） b 子どもに関する事 理由：

（ ） c 指導・援助に関する事 理由：

（ ） d 教材に関する事 理由：

（ ） e 記録に関する事 理由：

（ ） f 自分自身に関する事 理由：

（ ） g その他 理由：

### 2. 実習への期待度      0   1   2   3   4   5

☆その期待は主に何ですか。下記の項目のうち、当てはまる項目アルファベットに○印をつけ、不安の強い順に（ ）に番号と主な理由を記入して下さい。

（ ） a 実習園そのものに関する事 理由：

（ ） b 子どもに関する事 理由：

（ ） c 指導・援助に関する事 理由：

（ ） d 教材に関する事 理由：

（ ） e 記録に関する事 理由：

（ ） f 自分自身に関する事 理由：

（ ） g その他 理由：

### 3. 実習への意欲      0   1   2   3   4   5

理由：

### 4. 今後の授業やオリエンテーションへの希望

**参考文献**

- (1) 秋山和夫・岡田正章他「教育実習」医歯薬出版株式会社 1992年
- (2) 岡田正章他「幼稚園保育園 教育・保育実習ガイドブック」酒井書店・育英堂 1990年
- (3) 名古屋柳城短期大学実習委員会「実習の手引」名古屋柳城短期大学 1996年
- (4) 夏目恒雄・尾上明子・長根利紀代「教育実習に関する一考察」柳城女子短期大学研究紀要 第17号
- (5) 文部省「幼稚園 教育要領」大蔵省印刷局 1992年
- (6) 文部省「21世紀を展望した 我が国の教育の在り方について」株式会社ぎょうせい 1997年
- (7) 岡田正章・平井信義他「保育学大事典 2」第一法規 1983年
- (8) 佐々木保行他「日本保育学会 第50回大会 研究論文集」鳴門教育大学／四国大学 1997年
- (9) 小川博久「日本保育学会第51回大会 研究論文集」東京学芸大学 1998年